

オルタナ研究所

プライベート・エクイティ： 民間セクターの成長を掴む

トピックス

- 01 プライベート・エクイティの基礎
- 02 プライベート・エクイティの拡大
- 03 PE投資を検討すべき主な理由5つ
- 04 PEマネージャーの選定は慎重に

プライベート・エクイティの基礎

プライベート・エクイティとは？

プライベート・エクイティ（PE）は、非上場企業の実質的な株式持分を取得し、企業価値向上を目指すアクティブ運用型のオルタナティブ投資です。

PEファンドの運用者は、戦略面や運営に積極的に関与し、収益性や効率性の改善を通じて価値の創出を図ります。

こうしたファンドは、個人投資家に対しても、非上場企業の成長機会へのアクセスと長期的なリターン獲得の可能性を提供します。

プライベート・エクイティの仕組み

PE投資は一般的に以下3つの主要ステップで構成される



成長が期待される
非上場企業を取得



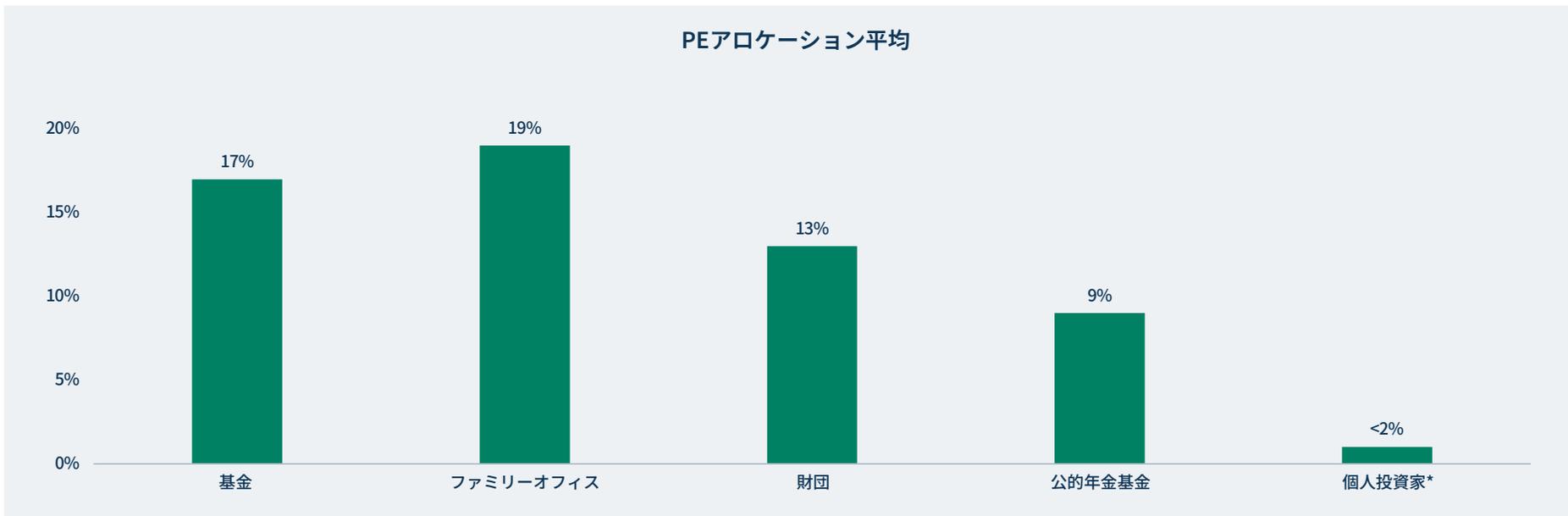
財務や運営面の最適化を通じて
企業価値を向上



IPOや売却を通じて
投資リターンを実現

PE 投資を牽引してきたのは機関投資家

今日では、個人投資家にとっても新たなPE投資機会とアクセスの拡大が進む

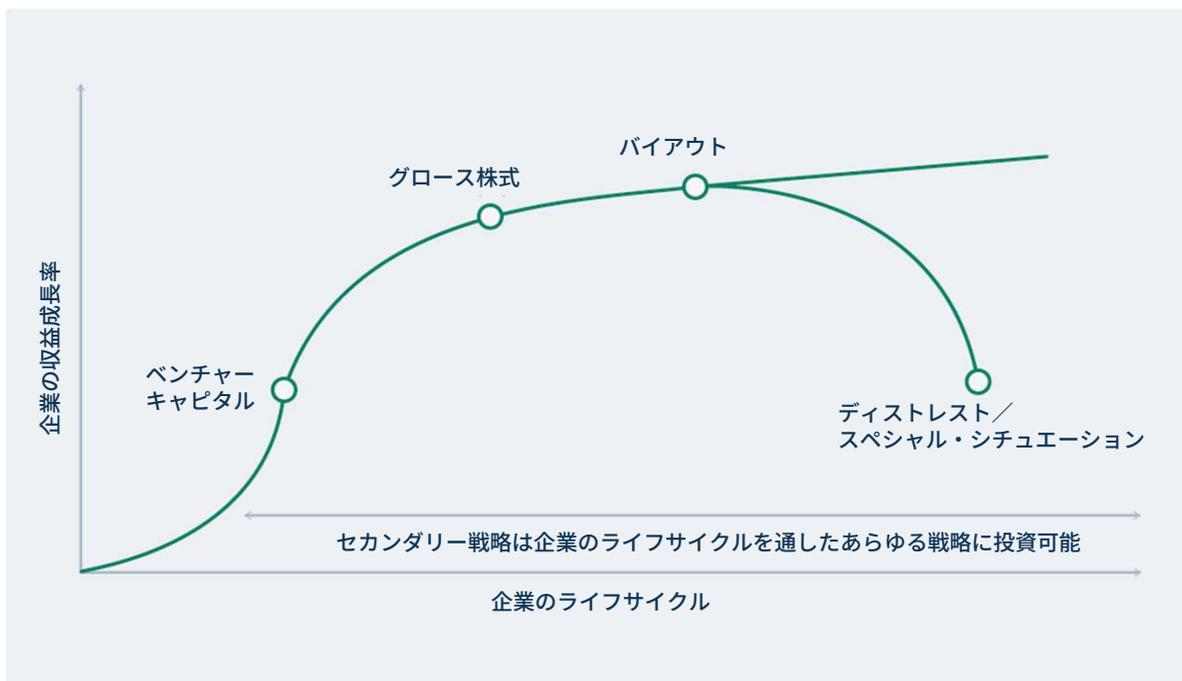


※この2%の資産配分には、プライベート・エクイティを含む全てのオルタナティブ資産が含まれており、PEはその一部にすぎません。

出所：マッキンゼー&カンパニー、プレキン、2024年時点。

企業のライフサイクルを通して異なるPE投資機会が存在

一般的に、戦略は企業の成熟度に応じて異なり、リスク水準も様々



ベンチャー・キャピタル：高い投資倍率が見込まれる初期段階の企業。高い収益成長の傾向があり、まだ利益を上げていない企業が投資対象

グロース株式：収益性を高めているか黒字に近づいており、事業拡大のため追加資本を要する企業に投資

バイアウト：効率性向上の余地があり、市場シェアの拡大が期待される（上場および非上場の）成熟企業

ディストレスト／スペシャル・シチュエーション：資金難に陥っている企業のエクイティ／デットに投資。投資家は企業の再構築を主導し、改革を実行し、黒字に戻して売却することを目指す

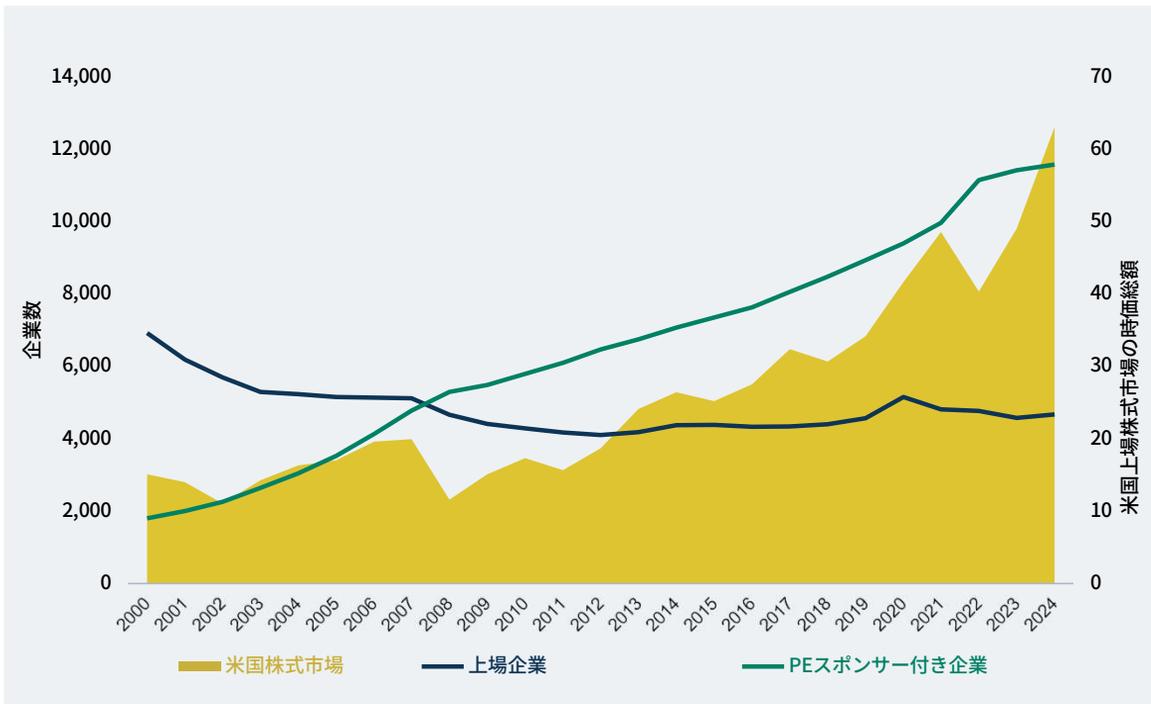
セカンダリー：ディスカウント価格でエクスポージャーを購入し、短期間で回収することを期待して、既存のPEファンドに（または投資先企業に直接）投資

出所：ブルックフィールド・アセット・マネジメント。例示目的のみ。

プライベート・ エクイティの拡大

上場企業数は減少がつつく

PEスポンサー付き企業の市場シェアは拡大



出所：ピッチブック、米連邦準備制度経済データ（FRED）、モーニングスター、国際取引所連合、2024年時点。

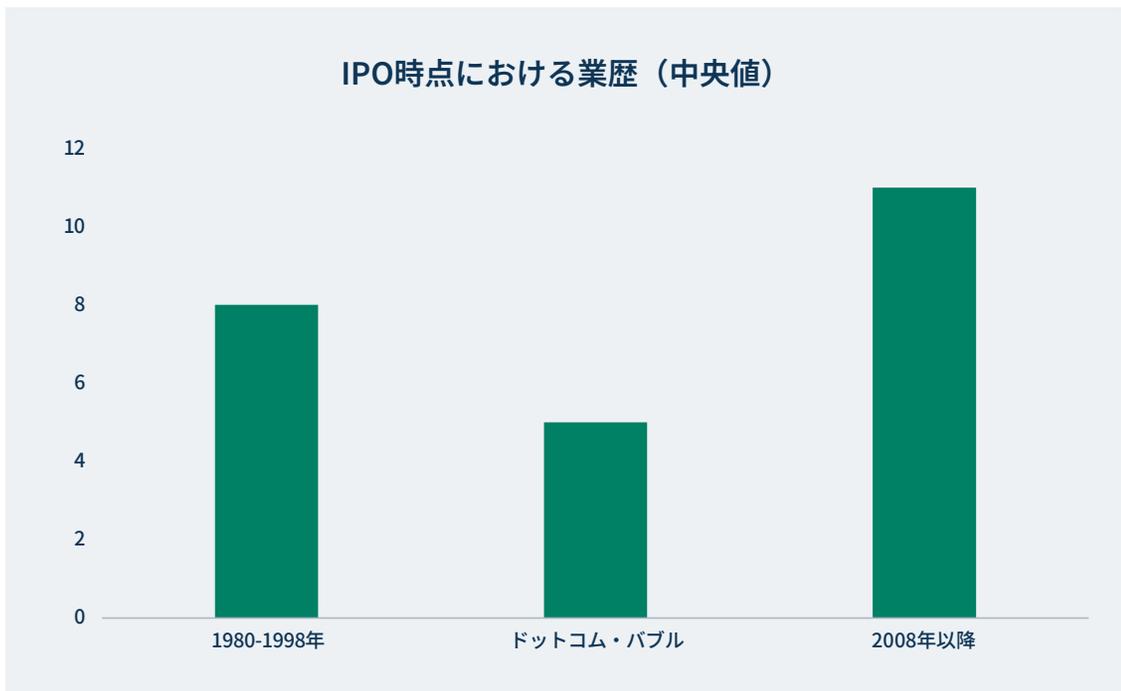
規制強化を背景として上場はより困難かつ魅力に欠ける選択肢となり、企業は非上場を維持する傾向にある

銀行融資の確保が困難となるなか、より多くの非上場企業がエクイティ資金を求めている

企業の成長段階、業種、リスク特性にわたり、**PEの投資機会は多様化**している。

消えた上場企業はどこへ？－非上場をキープ

サーベンス・オクスリー法により、財務開示要件、コーポレート・ガバナンス基準、関連コストが増加



1980～1990年代： IPO時点における企業年齢の中央値は8年

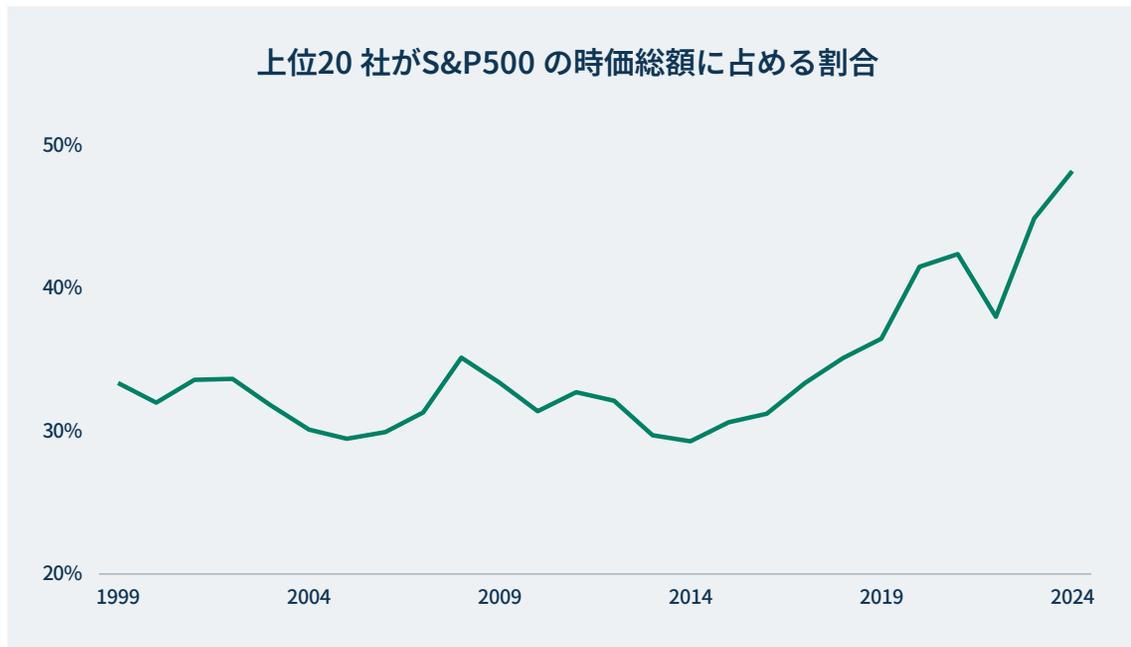
1999～2007年： IPO時の平均企業年齢はドットコム・バブル期に低下

2008年以降： 世界金融危機以降、IPO時の平均業歴は11年となっている

出所：Jay R. Ritter. 「Initial Public Offerings: Median Age of IPOs Through 2023」、2024年。

S&P500も過去10年で集中化が更に進む

分散投資の効果は損なわれ、集中リスクが高まる



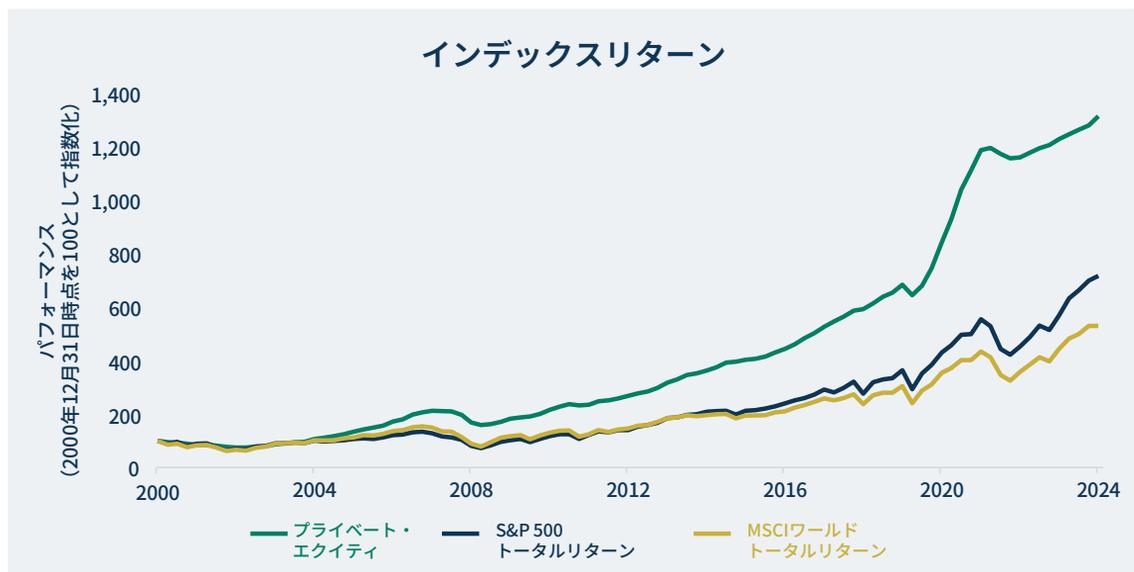
出所：ブルームバーグ、2024年12月時点。

S&P500銘柄のうち、わずか20社が市場パフォーマンスとリスクの大半を占めています。

これら20社のシェアは、過去10年間で約1.5倍に拡大しました。

PEは長期で公開市場をアウトパフォーム

高い耐性を示すPEは、持続的成長を志向するポートフォリオで重要な役割を果たす



プライベート・エクイティは、米国とグローバルの上場株式市場をアウトパフォームしており、力強いリターンを一貫して創出しています。

過去の実績は将来の成果を保証するものではありません。当資料は情報提供のみを目的としており、ファンドの運用実績を示すものではありません。インデックスへの直接投資はできません。プライベート・エクイティはブレキン・プライベート・エクイティ・インデックス、グローバル株式はMSCIワールド・インデックス、米国株式はS&P 500を使用しています。詳細は開示情報をご確認ください。

出所：モーニングスター、ブレキン、ブルックフィールド、2024年12月31日時点。

パブリック vs プライベート：類似点と相違点

	上場企業	非上場企業
所有形態	上場企業、公開市場で取引	非上場、私的に保有
流動性	高い	低い
運用者の影響力	限定的、パッシブ	高い、直接的
規制環境	米国証券取引委員会（SEC）の厳格な規制下にあり、詳細かつ頻繁な財務報告が義務付け	規制は比較的緩やかであり、投資家自身による高度なデューデリジェンスが必要
経営陣	経営陣は取締役会、アナリスト、株主への説明責任を負っており、短期的な利益目標に重点が置かれやすく、意思決定の柔軟性が制約される場合あり	経営は原則としてオーナー主導で行われるため、意思決定の自由度が高く、長期的な成長や収益の最大化に注力しやすい体制が整っている

PE：同じ資産クラスでもアクセス方法は様々

投資家ニーズに応じて設計された柔軟な投資ビークル

ビークル	エバーグリーン型プライベートPEファンド	従来のカローズドエンド型 ドローダウン方式プライベートPEファンド
詳細	ファンドの存続期間に定めがないオープンエンド型プライベート市場ファンドで、継続的に資金を受け入れながら、投資回収資金を継続的に新規投資に充当する	ファンドの存続期間が固定されたカローズドエンド型ファンドでは、投資家がまず投資資金のコミットメントを行い、投資に伴って同資金が段階的にコール（払込請求）される仕組み
流動性	中程度 ：通常、定期（四半期など）の償還請求が可能だが、一定の制限が設定されている。 流動性は保証されていないものの、従来型に比べて柔軟性に優れる。	低い ：投資資本に7～12年のロックアップ期間があり、ファンドの投資回収段階で分配が実施される。 セカンダリー市場は存在するが、限定的であり、ディスカウントを要する場合がある。

追加情報については開示事項を参照ください。

産業革命が長期的な価値創出の原動力に

AIが企業の再活性化を促進し、PE投資家に新たな投資機会をもたらされる可能性

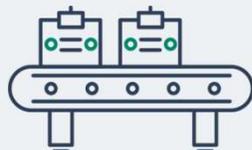
産業革命の変遷



1784年

第1次革命

機械化、蒸気力、
織機



1870年

第2次革命

大量生産、
組立ライン、電力



1969年

第3次革命

自動化、
コンピューターと
電子機器



現在

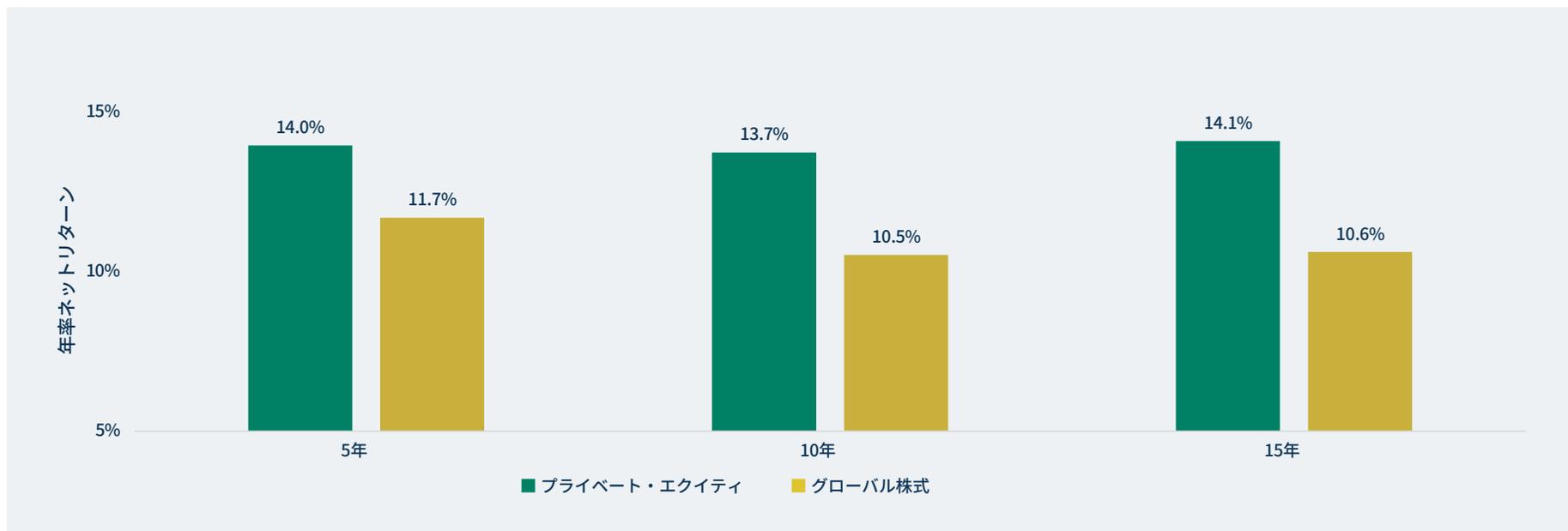
第4次革命

AI、機械学習、
ロボット工学、CPS、
IoT、IoS

出所：ディスラプティブ・リーダーシップ・インスティテュート、2024年3月。例示目的のみ。

PE 投資を検討すべき 主な理由5つ

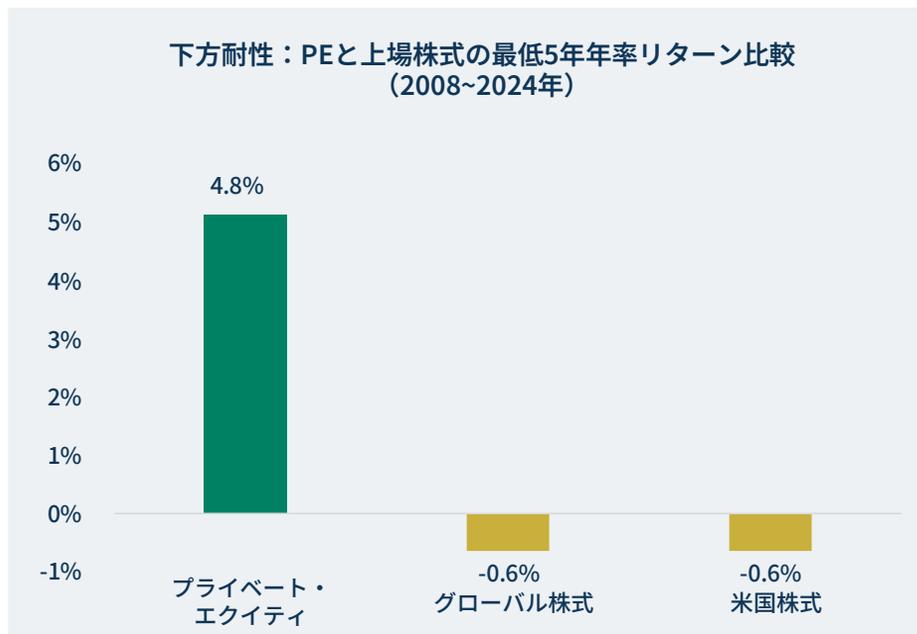
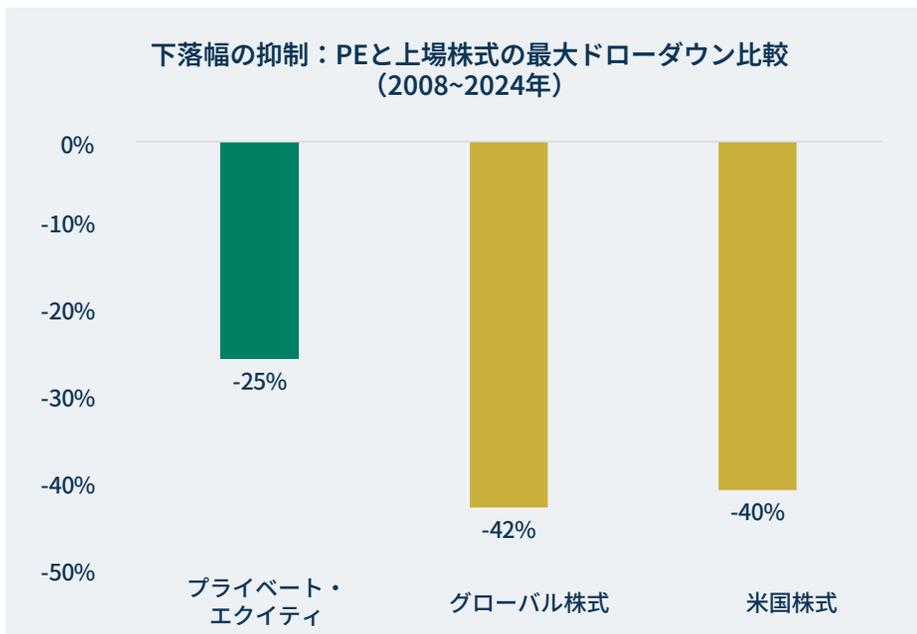
PEは一貫してグローバル株式をアウトパフォームしてきた



過去の実績は将来の成果を保証するものではありません。例示目的のみ。この情報はファンドの実際のリターンを示すものではありません。インデックスに投資することはできません。プライベート・エクイティはプレキン・プライベート・エクイティ・インデックス、グローバル株式はMSCI ワールド・インデックスで表されています。詳細については開示事項をご参照ください。

出所：ブルームバーグ、プレキン、ブルックフィールド、2024年12月31日時点。

PE は歴史的に市場のボラティリティを緩和してきた

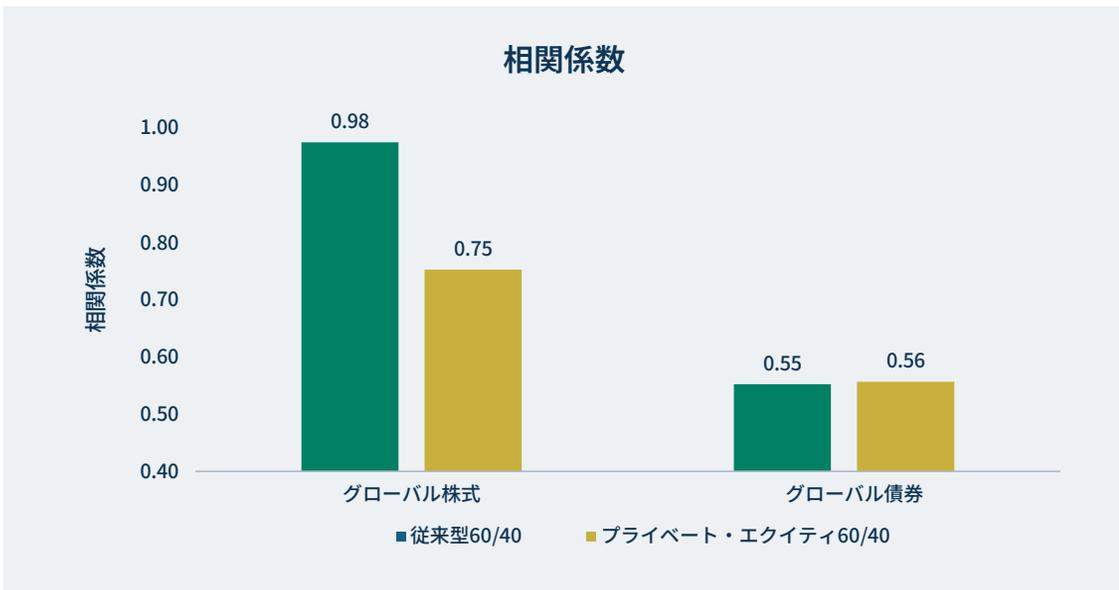


過去の実績は将来の成果を保証するものではありません。例示目的のみ。この情報はファンドの実際のリターンを示すものではありません。インデックスに投資することはできません。プライベート・エクイティはブレキン・プライベート・エクイティ・インデックス、グローバル株式はMSCI ワールド・インデックス、米国株式はS&P500インデックスで表されています。2008年~2024年の期間における最大ドローダウンは、いずれの資産クラスも2009年3月に発生しました。最低5年年率リターンは、2012年12月に終了する期間で記録されました。

出所：ブルームバーグ、ブレキン、ブルックフィールド、2024年12月31日時点。

プライベート・エクイティは貴重な分散効果をもたらす

グローバル株式との相関を抑えつつ、債券との相関上昇は抑制



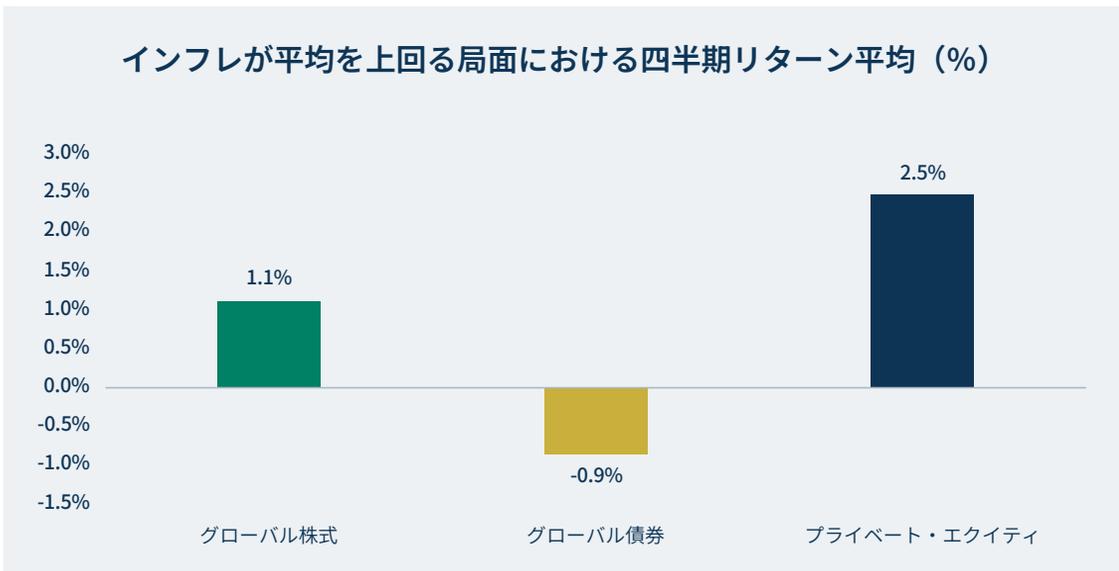
プライベート・エクイティはグローバル株式や債券と連動しないため、ポートフォリオに重要な分散効果をもたらす

過去の実績は将来の成果を保証するものではありません。分散は利益や損失の回避を保証するものではありません。例示目的のみ。この情報はファンドの実際のリターンを示すものではありません。インデックスに投資することはできません。グローバル株式はMSCIワールド・インデックス、グローバル債券はブルームバーグ・グローバル総合債券指数、従来型60/40はMSCIワールド・インデックス60%とブルームバーグ・グローバル総合債券指数40%の組み合わせ、プライベート・エクイティ60/40はプレキン・プライベート・エクイティ・インデックス60%とブルームバーグ・グローバル総合債券指数40%の組み合わせを、それぞれ2008年1月1日から2024年12月31日までの期間で示しています。

出所：モーニングスター、プレキン、2024年12月31日時点。

相関とは、2つの投資がどの程度連動して動くかを示す統計指標です。相関係数が1の場合、完全な正の相関を意味し、両者が同じ方向に同じ割合で動くことを示します。一方、相関係数が-1の場合は完全な負の相関を示し、過去において逆の方向に動いてきたことを意味します。

PE は潜在的にインフレヘッジ効果をもたらす



過去の実績は将来の成果を保証するものではありません。分散は利益や損失の回避を保証するものではありません。例示目的のみ。この情報はファンドの実際のリターンを示すものではありません。インデックスに投資することはできません。グローバル株式はMSCIワールド・インデックス、グローバル債券はブルームバーグ・グローバル総合債券指数、プライベート・エクイティはブレキン・プライベート・エクイティ・インデックスで示しています。インフレ率は季節調整済み消費者物価指数（CPI-U）で定義されています。平均を上回るインフレ期間とは、CPIが過去の平均値を上回った四半期を指します。分析期間中の平均CPIは2.49%で、そのような四半期は25回ありました。詳細は開示情報をご参照ください。

出所：ブルームバーグ、ブレキン。2008年1月1日から2024年12月31日までの期間。

インフレ局面で耐性をもたらすPEの特徴5つ：

価格決定力：多くのPEスポンサー付き企業はコスト増加分を顧客に転嫁可能

積極的な経営関与：運営改善によって生み出される価値がインフレ圧力を相殺

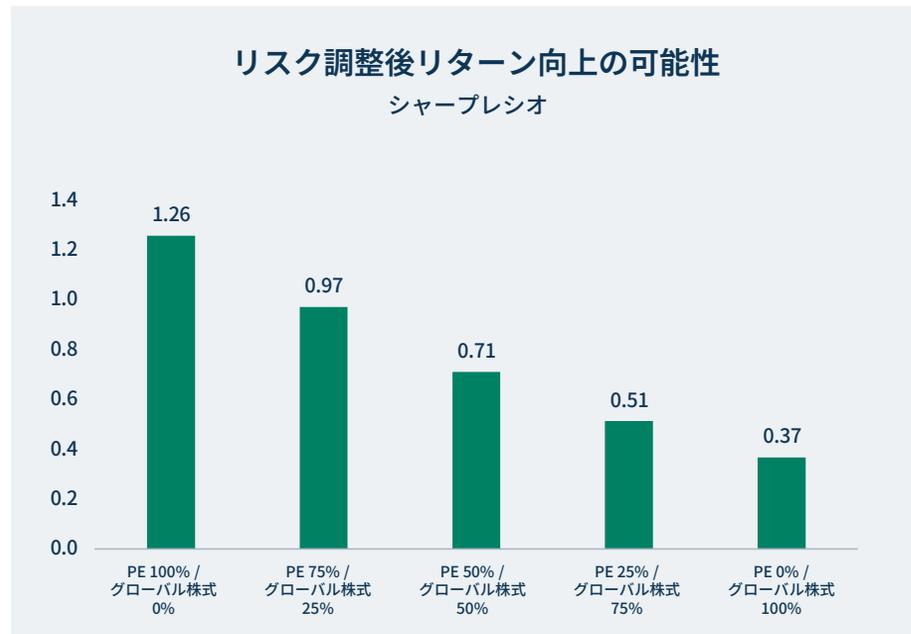
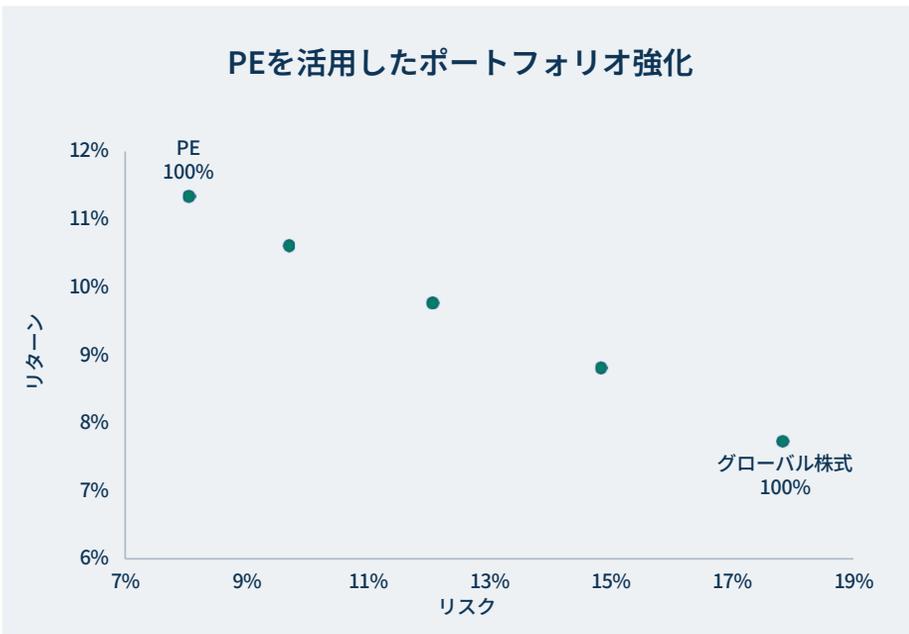
長期投資：短期的な変動に左右されず、持続的な成長に注力することが可能

戦略的なレバレッジの活用：固定金利の借入は、資産価値の上昇とともにリターン向上に寄与

強固なキャッシュフロー重視：継続的な収益が安定性を提供

プライベート資産エクスポージャーはポートフォリオの向上に寄与

PEの組み入れは、一般的にリスク調整後リターンを引き上げる



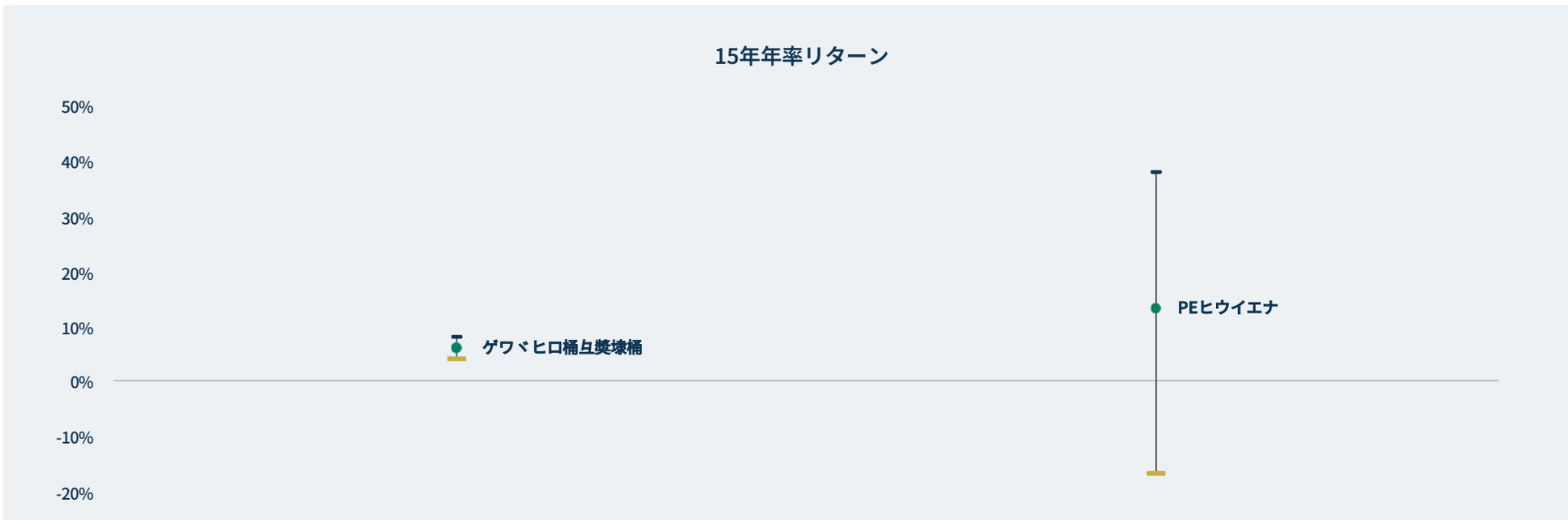
過去の実績は将来の成果を保証するものではありません。分散は利益や損失の回避を保証するものではありません。例示目的のみ。この情報はファンドの実際のリターンを示すものではありません。インデックスに投資することはできません。2008年1月1日から2024年9月30日までの期間。グローバル株式はMSCIワールド・インデックス、プライベート・エクイティはブレキン・プライベート・エクイティ・インデックスで示しています。2008年1月1日から2024年9月30日までの期間。シャープ・レシオは、リスク調整後リターンを測る指標です。リスクの高い資産を保有する際に、そのボラティリティ（価格変動）に対して、どれだけ超過リターンを得られているかを示します。詳細は開示情報をご参照ください。

出所：ブルームバーグ、ブレキン、2024年12月31日時点。

PEマネージャーの 選定は慎重に

マネージャー選定の重要性

PEはアクティブ運用であり、パフォーマンス格差は最大55%に達する

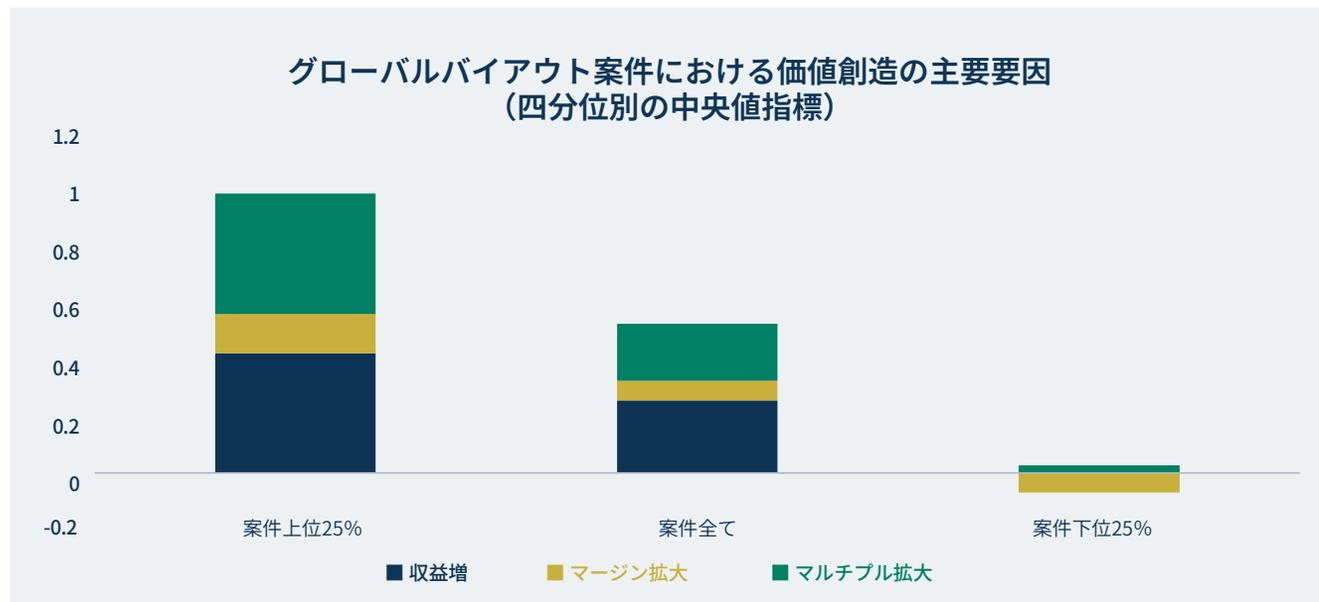


過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。パフォーマンス・レンジは、マネージャーのリターンの上位95%、下位5%および中央値を示しています。提示されたデータは、15年年率換算リターンです。グローバル大型株式は、15年のトラックレコードを持つ米国オープンエンド型ファンドのモーニングスターによるピアグループを使用しています。PEは、PEバイアウトファンドのプレキンによるピアグループを使用しています。プライベート資産クラスのリターンは、2010年～2015年に設定され解約済みとして分類されており、最低95%のキャピタルコールが行われ、分配対払込資本倍率 (DPI) が0以上の、プライベートファンド・グループのネットIRRに基づきます。詳細は開示情報をご参照ください。

出所：モーニングスター、プレキン、2024年。

上位25%のマネージャーの強みは運営改善

目標：収益性の向上と売上成長の両立



投資家にとって重要となるのは、豊富な経験と強力な運営能力を有するマネージャーとのパートナーシップ

質の高い投資の発掘・実行・価値向上を継続的に手掛けることが可能な規模・専門性・ソーシング能力を備えたマネージャーに注目

過去の実績は将来の成果を保証するものではありません。例示目的のみ。内部収益率（IRR）による上位および下位25%の案件を対象としており、IRRデータが利用可能な取引のみを含みます。対象は、エントリー年別の完全または部分的に実現済みで、投資エクイティ資本額が5,000万米ドル以上のグローバルバイアウト案件で、不動産は除外しています。すべての数値は米ドルで算出されています。

出所：ベイン&カンパニー、グローバル・プライベート・エクイティ・レポート、2024年。

インデックスに関する開示事項

当資料内で引用されたインデックスは運用されておらず、投資家がインデックスに直接投資することはできません。インデックスのパフォーマンスは例示のみを目的として記載されており、いかなる投資のパフォーマンスも予測または表示するものではありません。当該比較に関連して、記載されたインデックスとブルックフィールドの戦略、コンポジットまたはファンドへの投資との間には、ボラティリティや規制上および法律上の制約の違いなど、重大な要因が存在する可能性があります。ブルックフィールドは、第三者のインデックス・スポンサーからインデックスに関するすべてのデータを取得しており、当該データは正確と考えていますが、その正確性に関していかなる表明も行いません。インデックスは運用されておらず、投資家が直接購入することはできません。

ブルックフィールドは、当資料で参照されたインデックスを所有しておらず、その構築または日々の管理に関与していません。当資料に記載されたインデックスの情報は、お客様への情報提供のみを目的としており、ブルックフィールドの運用商品が同様の結果を達成すると暗示または予測するものではありません。当該情報は予告なく変更されることがあります。当資料で参照されたインデックスは、いかなる報酬、費用、販売手数料または税金も控除していません。インデックスに直接投資することはできません。インデックス・スポンサーは、インデックスおよび関連データの「現状のまま」での使用を許可しており、これに関していかなる保証も行わず、インデックスまたはインデックスに含まれる、関連する、もしくはそこから派生するデータの適合性や品質、正確性、適時性、完全性を保証せず、それらの使用に関連して一切の責任を負いません。インデックス・スポンサーは、直接的、間接的、特別、偶発的、懲罰的、結果的またはその他の損害（利益の損失を含む）について一切の責任を負いません。インデックス・スポンサーは、ブルックフィールドまたはそのいかなる運用商品やサービスの後援、是認または推奨も行いません。別段の注記がない限り、全てのインデックスはトータルリターン・インデックスです。

MSCI は、ここに含まれるMSCIデータに関して、明示的または黙示的な保証または表明を行わず、いかなる責任も負いません。MSCIのデータをさらに再配布したり、他の指数や証券、金融商品の基礎として使用することはできません。当資料はMSCIによって承認、審査、作成されたものではありません。

インデックスの定義

消費者物価指数（CPI）は、消費財とサービスの市場バスケットに対して都市部の消費者が支払った価格の経時的な変化の平均を測定する指標です。

MSCI ワールド・インデックスは、先進国の株式市場のパフォーマンスを測定するように設計された、浮動株調整後時価総額加重インデックスです。

ブレキン・プライベート・エクイティ・インデックスは、プライベート・キャピタル・パートナーシップへの実際の投資金額に基づいて、投資家がプライベート・エクイティ・ポートフォリオで平均的に獲得したリターンを指数化したものです。過去のデータポイントは、直近の2四半期（暫定）を除き、再計算されません。四半期（暫定）は、構成データが全て出揃う3四半期遅れで確定されます。各四半期のファンドのユニバースは、データの入手可能性に応じて、時間の経過とともに変化する可能性があります。

S&P 500指数は、幅広く保有されている米国の大企業500社の時価総額加重平均株価指数です。

ブルームバーグ・グローバル総合インデックスは、27の現地通貨市場におけるグローバルな投資適格債券を測定する指標です。この複数通貨建てのベンチマークには、先進国および新興国の発行体による、国債、政府関連債、社債、および証券化された固定金利債券が含まれます。

開示事項

リスクに関する記述

オルタナティブ投資は複雑かつ投機的であり、全ての投資家に適したものではありません。オルタナティブ投資には高リスクが伴い、オルタナティブ投資ファンドの投資目標が達成される又は投資元本が返済される保証はありません。

資産クラスとして、プライベート・クレジットは多様なデット商品で構成されています。それぞれのリスク／リターン特性は異なるものの、プライベート・クレジット投資では、資金調達選択肢が限定的な企業へのオポチュニスティックな投資を模索するため、一般的に、上場のものと比較してデフォルト・リスクが高くなります。

プライベート・クレジット投資では、通常、発行体が投資適格未済または無格付けであるため、より高いリスクの対価として利回りもより高くなります。

全てのプライベート・エクイティ投資には一定のリスクが伴います。

不動産関連商品への投資は、不動産の価値や賃料もしくは入居率・稼働率に影響を及ぼす可能性がある経済要因、法的要因、環境要因からの影響を受ける場合があります。

エバーグリーン型PEファンドと従来のクローズドエンド型PEファンドに関する重要な開示事項

エバーグリーン型プライベート・エクイティ（PE）ファンドと、従来のクローズドエンド型ドロウダウン方式PEファンドは、構造、流動性、手数料、課税、リスクプロファイルなどの点で本質的に異なります。エバーグリーン型PEファンドは、終了期限が設定されていないオープンエンド型のピークルとして組成されるのが一般的で、四半期ごとのような定期的な申込・解約が可能です。ただし、これらにはファンドの流動性、事前通知要件、解約待ち、ゲート条項などの制限が適用されます。一方、従来のクローズドエンド型PEファンドは通常10～12年の期限付きで運用され、投資家は一定の資本をコミットし、必要に応じて資金が引き出され、主にファンド後半で投資の回収を通じて分配を受けます。これらのファンドには中途解約権はなく、流動性は投資のエグジットに伴う分配を通じてのみ得られます。

手数料体系にも大きな違いがあります。エバーグリーン型ファンドでは、一般的に純資産価値（NAV）に基づいて運用報酬が課されるほか、短期的またはローリングベースで実現益に対する成果報酬（いわゆる「キャリー」）が発生する場合があります。一方、従来のクローズドエンド型ファンドでは、投資期間中はコミット済み資本に基づいて運用報酬が課され、投資期間終了後は投資済み資本またはNAVに基づいて計算されます。成果報酬は通常ファンド全体で計算され、優先リターン（ハードルレート）およびファンド単位の「クローバック」条項が適用されるのが一般的です。また、エバーグリーン型ファンドでは、流動性管理、カस्टディ（保管）、投資家対応、ファンド運営管理などに関連する継続的な費用が発生する場合があります。これらのコスト構造はクローズドエンド型ファンドとは異なる可能性があります。

分配および再投資方針にも大きな違いがあります。エバーグリーン型ファンドでは、プライベート市場への継続的なエクスポージャーを維持するため、実現された収益を再投資することが一般的です。一方、従来のクローズドエンド型PEファンドでは、ポートフォリオ投資の売却後、投資家への資本返還が優先されます。税務上の取り扱いも、ファンドの構造や投資家の居住地によって異なる場合があります。エバーグリーン型ファンドでは、資本のリサイクルや頻繁な分配が行われることで、税務上の影響が発生しやすく、一般的に保有期間が長く、課税イベントが限定的なクローズドエンド型PEファンドとは異なる課税上の結果をもたらす可能性があります。

投資家は、エバーグリーン型PEファンド特有のリスク要因についても慎重に検討する必要があります。これには、流動性の制限、償還ゲートや償還遅延の可能性、より頻繁なNAV算出に起因する評価リスクなどが含まれますが、これらに限られません。また、リターンのタイミングや変動性も異なる場合があります。エバーグリーン型PEファンドは、資本の継続的な投入および再投資により、時間を通じてより平準化されたリターン特性を示す傾向にありますが、その結果、ピーク時の内部収益率（IRR）は低めになることがあります。一方、従来のクローズドエンド型PEファンドは、特定の投資サイクル内で集中した価値創造を追求する構造となっており、ビンテージごとにリターンのばらつきが大きくなる可能性があります。

この要約は情報提供のみを目的としており、証券の売買の勧誘または勧誘の申し出を構成するものではありません。投資家は、目論見書や申込資料

を含むすべての募集書類を慎重にご確認のうえ、投資判断を行う前に財務および税務の専門家に相談されることを推奨します。

ミューチュアル・ファンドと従来のクローズドエンド型プライベート・エクイティ（PE）ファンドに関する重要な開示事項

投資家は、ミューチュアル・ファンドと従来のクローズドエンド型ドロウダウンPEファンドが、構造、流動性、手数料、課税、評価手法およびリスク特性の面で本質的に異なることを理解しておく必要があります。

構造と流動性の違い：

ミューチュアル・ファンドは一般的にオープンエンド型で、毎日純資産価値（NAV）に基づく申込・償還が可能です。このため、高い流動性と柔軟性を提供し、短期から中期の投資期間に適しています。一方、従来のクローズドエンド型PEファンドは通常10年から15年の定められた期間で運用され、投資家は資金をコミットし、その資金は時間をかけて呼び出され、主にファンドの後半で分配されます。クローズドエンド型PEファンドの投資家には償還権がなく、流動性は保有資産の売却に伴う分配を通じてのみ得られます。

手数料構造と費用：

ミューチュアル・ファンドは通常、日次のNAVに基づく資産ベースの管理報酬を課し、さらに分配費用（例：12b-1手数料）、振替代理手数料、ファンド運営費用などの継続的費用がかかる場合があります。一部のオルタナティブやヘッジ型戦略を除き、パフォーマンスに連動した報酬は一般的ではありません。これに対し、従来型PEファンドでは、投資期間中はコミット済み資本に対して管理報酬を課し、その後は投資済み資本またはNAVに対して課されます。加えて、実現利益に基づく成功報酬を設定しており、優先リターンおよびファンドレベルのクローバック条項が適用されることが一般的です。さらに、取引発掘、法務デュー・デリジェンス、ポートフォリオモニタリングなどのファンドレベルの追加費用が発生する場合もあります。

開示事項

分配および再投資方針：

ミューチュアル・ファンドは、配当、利息収入、およびキャピタルゲインを定期的（四半期または年次など）に投資家に分配します。通常、これらの分配金は自動的に再投資されますが、現金受取を選択することも可能です。一方、従来のクローズドエンド型プライベート・エクイティ（PE）ファンドでは、投資先資産が売却・実現された時点でのみ、資本が投資家に返還されます。再投資は原則として認められておらず、分配は事前に定められたウォーターフォール構造（優先順位に基づく分配ルール）に従って行われます。

評価手法：

ミューチュアル・ファンドは、市場で観測可能な価格に基づき、日次で時価評価を行うため、透明性が高く、リアルタイムでの資産価値の把握が可能です。これに対し、従来型PEファンドの評価は四半期ごとなど低頻度で行われ、デスカウント・キャッシュフロー法、類似企業比較、直近の取引価格などを基に公正価値を推計します。これらの手法は主観的要素が大きく、ミューチュアル・ファンドと比べて評価に時間差が生じやすい点が特徴です。

課税扱い：

ミューチュアル・ファンドの投資家は、たとえ分配金を再投資していても、利息、配当、実現キャピタルゲインの分配に応じて毎年課税報告が必要です。米国籍のミューチュアル・ファンドは通常、規制投資会社（RIC）として課税され、ファンドレベルでの税効率を保つために収益のほぼ全額を分配する必要があります。一方、従来型PEファンドは、一般にリミテッド・パートナーシップ（LP）として組成されており、課税の繰延効果を得やすい構造です。課税イベントは主に資産売却時に発生し、投資家にはSchedule K-1が発行されます。長期キャピタルゲインの取扱いやパスルー課税の仕組みなど、投資家の居住国・税制ステータスによって特有の税務上の考慮事項が伴います。

リスクプロファイルとリターン特性：

ミューチュアル・ファンドは日次で流動性が提供される一方で、一般的に公開市場や金利環境との相関性が高い傾向があります。そのため、分散

性、透明性、資本保全を重視する投資家に適した商品といえます。一方、従来のクローズドエンド型プライベート・エクイティ（PE）ファンドは、流動性の低い非上場企業に投資し、運営改善、戦略的リポジショニング、ファイナンス手法の活用を通じた長期的な企業価値の向上を目指します。こうしたファンドは、絶対リターンの上昇が期待される反面、投資先の集中度が高く、流動性が限定的で、運用初期にリターンが一時的に低下する「Jカーブ効果」が生じやすいことに加え、ピンチージや運用者間での成果のばらつきも大きくなります。

この要約は情報提供のみを目的としており、証券の売買の勧誘または勧誘の申し出を構成するものではありません。投資家は、目論見書や申込資料を含むすべての募集書類を慎重にご確認のうえ、投資判断を行う前に財務および税務の専門家に相談されることを推奨します。

ブルックフィールド・オークツリー・ウェルス・ソリューションズ・エルエルシーは、ブルックフィールドの完全子会社です。ブルックフィールド・オークツリー・ウェルス・ソリューションズ・エルエルシーは、米国証券取引委員会（SEC）の登録ブローカー・ディーラーであり、米国金融業規制機構（FINRA）と米国証券投資者保護公社（SIPC）の会員です。

当資料に含まれる論説および情報は、教育および情報提供のみを目的としており、いかなる証券もしくは関連する金融商品の募集または購入申し込みの勧誘ではなく、そのように解釈してはなりません。当資料内の説明は広範な市場、産業もしくはセクターのトレンドまたはその他の一般的な経済や市況を論じており、秘密情報として提供されています。ブルックフィールド・コーポレーションとその関係会社（総称して「ブルックフィールド」）が設定するいかなる商品に適用される条件の概要の提供を目的としたものではありません。当資料で提供される情報の一部は、ブルックフィールドの内部調査に基づいて作成されており、一定の情報はブルックフィールドによる様々な仮定に基づいており、いずれの仮定も正確とは限りません。ブルックフィールドは、当資料に含まれる情報（第三者から提供される情報を含む）の正確性または完全性を必ずしも検証しておらず（そして検証する義務を負わず）、いかなる情報についても検証されたものとしてブルックフィールドに依拠することはできません。当資料で提供された情報は、当資料作成時点におけるブルックフィールドの視点および信念を反映しています。

当資料で示された意見は、子会社および関連会社を含むブルックフィールドの現在の意見であり、予告なく変更される場合があります。子会社および関連会社を含むブルックフィールドは、当該情報の更新または顧客への変更の通知を行う責任を負いません。当資料に提示されたいかなる見通し、予測またはポートフォリオ保有比率も当資料に示された日付時点のものであり、予告なく変更される場合があります。過去の実績は将来の成果を示唆するものではなく、投資の価値およびそれらの投資から生じるインカムは変動する可能性があります。

将来の見通しに関する記述

当資料は、米国連邦証券法令、具体的に米国1934年証券取引所法（その後の改正を含む）第21E条における意義の範囲内における将来の見通しに関する記述を含む情報やそれらに基づく情報が含まれています。将来の見通しに関する記述は、事業戦略や投資戦略もしくは戦略遂行のための措置、競争力、目標、事業の拡大および成長、計画、見込み、将来の成功への言及など、将来の行動、事象または動向に関して、過去の事実の記述以外のすべての記述を含みます。これらの記述は、過去または現在の事実と厳格に関連しないという事実によって特定することができます。「予測」、「推定」、「期待」、「予想」、「想定」、「計画」、「考え」やその他の類似する用語は、これらの将来の見通しに関する記述を特定するために用いられます。将来の見通しに関する記述は、不正確な仮定や既知もしくは未知のリスクおよび不確実性によって影響を受ける可能性があります。そうした要素の多くは、将来の実際の結果や成果を決定する上で重要となります。そのため、いかなる将来の見通しに関する記述についても保証はありません。実際の結果や成果は大きく異なることがあります。これらの不確実性を踏まえ、これらの将来の見通しに関する記述に不当に依拠するべきではありません。

付録：主な用語

分配利回り (DPI)

手数料控除後のリターンを示す指標で、分配金として投資家に返還される総資本（運用報酬を考慮した上で実現した投資先企業のエグジット）と投資した総資本との比率として算出される。

ゼネラル・パートナー (GP)

リミテッド・パートナーシップの管理責任を負うパートナー。リミテッド・パートナーシップは、通常ファンドを通じて、公開市場では入手できない投資へのアクセスを提供する。GPIは、資金調達と日々のファンド運営管理に加え、投資のタイミングを決定し、経営陣を支援して価値を最大化し、リミテッド・パートナーに分配できるよう投資の流動化を図る。

内部収益率 (IRR)

ある投資案件の将来価値を、あたかも現在評価されているかのように見積もるための計算。IRRは、割引キャッシュフロー分析において、すべてのキャッシュフローの正味現在価値 (NPV) をゼロにする割引率である。根本的にIRRと割引率は似ているが、IRRが割引率を求めるのに対し、割引率は現在価値を求める。

IRRは、様々な投資に用いることができる。不動産投資においてIRRは、取得価格が与えられた保有期間中の年間ネット・キャッシュフローと、保有

期間終了時の売却収入を見込んだものである。IRRは、年間のネット・キャッシュフローと時間の経過に伴う資産価値の変化を取り入れるため、不動産の長期的な収益性を測る際に適している。

プライベート・エクイティでは、IRRは損益分岐点とも呼ばれ、投資した資本と投資が生み出すと期待される資本の現在価値の間の点を指す。損益分岐点が高ければ高いほど、投資に期待される潜在的リターンがより高いことを意味する。

投下資本

投資家資本でポートフォリオ企業を購入するために使用された、手数料控除後の金額。

Jカーブ

当初の損失を反映したリターンのトレンドラインで、その後、当初の投資額を上回る急激な上昇（大文字のJのような形状）を示す。Jカーブは、私募市場ファンドで投資家が経験する典型的な経緯を反映しており、投資家が初期投資額を回収して投資利益の恩恵を受けるまでには数年を要することが多い。初期に予想されるマイナスのリターンの特徴は、ファンドのマイナスのパフォーマンスを反映しているのではなく、ファンドが資本を展開しようとする最初の数年間に発生するオペレーション費用を反映するものである。

ポートフォリオ企業 (投資先企業)

プライベート・エクイティ・ファンドが保有する企業。

Thank You

Brookfield |  **OAKTREE**
WEALTH SOLUTIONS

 brookfieldoaktree.com